

環境ホルモン研究最前線 有害化学物質から子どもたちを守る 学習会

脳の発達に影響を与える化学物質とは？ —脳高次機能に対する化学物質の周産期ばく露の影響—

通常学級に通う小中学校の児童生徒の8・8%に、発達障害の可能性があることが、2022年12月13日、文部科学省の調査で明らかになりました。

脳は、遺伝と環境の相互作用によって発達していきます。遺伝子が短期間のうちに変異することはありえず、発達障害の急増は、環境要因が関与していると考えられます。

環境要因は多様ですが、なかでも農薬や内分泌かく乱物質(環境ホルモン)などの化学物質のばく露が関与している可能性が指摘されています。

菅野純先生は、脳の発達に影響を与える多種類の化学物質について、長年研究されてきました。

今回、脳の発達に影響を与える化学物質にはどんなものがあるのか、そして胎児期・新生児期(周産期)に化学物質に曝された際に、脳の高次機能にどのような障害が残るかなど、最新の研究について、わかりやすくお話し頂きます。



2023年 2月18日 (土)
午後2時30分～4時30分



連合会館402会議室(定員72名)
でのライブとZoomウェビナーの
同時開催



無料

参加ご希望の方は、

メール(kokumin-kaigi@syd.odn.ne.jp)

でお申し込みください。

ライブ参加か、ウェビナー参加かを明記してください。



菅野純 (かの・じゅん) 氏

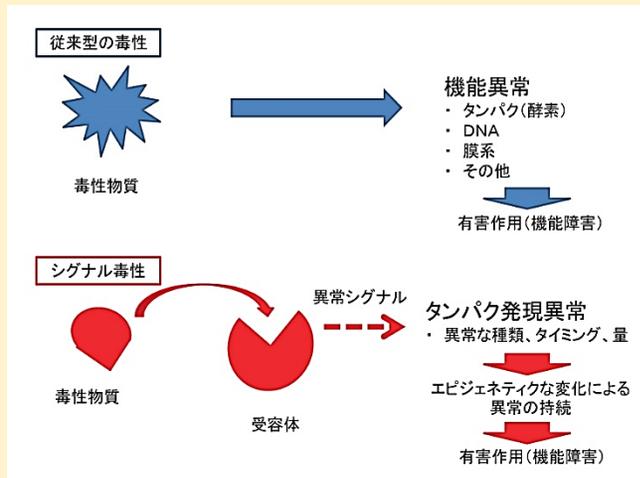
国立医薬品食品衛生研究所・毒性部・部長、国際
毒性学連盟会長、日本毒性学会理事長を歴任

現在の所属

国立医薬品食品衛生研究所・客員研究員・名誉所員
(公) 日産厚生会 玉川病院 病理診断科 部長
国立大学法人筑波大学医学部医療系客員教授



JEPAニュース91号 立川涼・元代表と菅野純先生の対談より



従来の毒性とシグナル毒性の比較 従来の毒性が直接細胞の機能異常をきたすのに対して、シグナル毒性は細胞の中にある受容体を介して細胞に誤ったシグナルを与えることで有害作用を起こします。殺虫剤や内分泌かく乱物質などは、シグナル毒性によって、脳発達に悪影響を及ぼすことが予想されます。

このセミナーは2022年度
地球環境基金の助成を受けて開催されます。

お問い合わせ お申込み

NPO法人ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議

〒136-0071 東京都江東区亀戸7-10-1 Zビル4階

Tel.03-5875-5410 Fax.03-5875-5411

Homepage: www.kokumin-kaigi.org

Email: kokumin-kaigi@syd.odn.ne.jp